

○東京藝術大学年俸制教員の業績評価の実施要項

〔平成28年3月24日〕
学 長 裁 定

(趣旨)

第1条 この実施要項は、東京藝術大学年俸制教員の評価に関する規則第6条第7項の規定に基づき、年俸制教員の業績評価の実施に関し、必要な事項を定める。

(評価項目)

第2条 業績評価にかかる評価項目は、次の各号のとおりとする。ただし、直属の監督者(原則として年俸制教員が所属する部局の長とする。以下、同じ。)は当該年俸制教員の業務内容を勘案して、一部の項目を除外して設定することができる。

- (1) 教育
- (2) 研究
- (3) 社会貢献
- (4) 産学連携
- (5) 国際
- (6) 大学運営

(業績目標)

第3条 業績評価にかかる業績目標は、大学及び部局のミッション等を踏まえて設定するものとする。

(業績評価の実施手順)

第4条 直属の監督者は、業績評価の対象期間の始期に、年俸制教員と面談の上、当該期間の評価項目及び業績目標を設定する。

2 年俸制教員は、業績評価の対象期間の終期に、当該期間における評価項目の業績について、業績項目調書(別紙様式1-1)を作成するとともに、業績目標の達成状況について、目標管理調書(別紙様式2)の取組実績欄へ記入し、直属の監督者へ提出する。

3 直属の監督者は、次の手順等により1次評価を行う。

- (1) 直属の監督者は、年俸制教員と面談を行い、当該年俸制教員の教育研究分野における多様な要素を勘案して客観的な観点から、1次評価を行うものとする。なお、1次評価を行う際、必要に応じて、当該部局に所属する他の教員から意見を聴取することができるものとする。
- (2) 1次評価の基準は次のとおりとする。

評定	評価基準	貢献度に関する調書
◎	被評価者の専門的分野及び全学的な見地からも極めて顕著な業績があると客観的に認められる場合	要
	特に顕著な業績と客観的に認められる場合	
○+	標準を上回る業績であると認められる場合	
○	通常の職に期待できる業績であると認められる場合	不要
△	勤務成績が不良な場合／取組状況が不十分な場合	要

- (3) 直属の監督者は、当該年俸制教員の業績項目調書（別紙様式1-1）の内容を参考として、基準に従い評価項目ごとに4段階の評定を付し、項目評価調書（別紙様式1-2）に記載する。
- (4) 直属の監督者は、目標管理調書（別紙様式2）に記載された業績目標と取組実績を比較し、その達成度について基準に従い4段階の評定を付し、目標管理調書（別紙様式2）に記載する。
- (5) 直属の監督者は、○以外の評定を付した評価方法及び評価項目ごとに貢献度に関する調書（別紙様式3）を作成する。
- (6) 項目評価調書（別紙様式1-2）、目標管理調書（別紙様式2）、貢献度に関する調書（別紙様式3）を業績評価委員会（以下、「委員会」という。）に提出する。
- 4 委員会は次の手順等により、1次評価の確認を行う。
- (1) 委員会は、業績項目調書（別紙様式1-1）、項目評価調書（別紙様式1-2）、目標管理調書（別紙様式2）、貢献度に関する調書（別紙様式3）の内容を参考として、1次評価の結果について適切な評価が行われているか確認を行う。
- (2) 委員会は、1次評価の確認に際して、必要に応じ、当該年俸制教員及び直属の監督者からヒアリングを行うことができる。
- (3) 委員会は、確認の結果、1次評価の差し戻しを行うことができる。
- 5 委員会は次の手順等により、2次評価を行う。
- (1) 委員会は、1次評価の結果を踏まえ、評定ごとに次の基準により点数を付す。

相当する評定	点数
◎	5
○+	4
○（標準）	3
△	2～0

- (2) 委員会は、評価方法及び評価項目数と各点数との比により点数を標準化した数値を参考として、次の基準により成績区分を審議する。

区分	評価基準
S	被評価者の専門的分野及び全学的な見地からも極めて顕著な業績があると客観的に認められる場合
A	特に顕著な業績と客観的に認められる場合
B	標準を上回る業績であると認められる場合
標準	通常の職に期待できる業績であると認められる場合
D	<ul style="list-style-type: none"> ・懲戒処分等を受けた場合 ・勤務成績が不良な場合

(3) 委員会は、成績区分の審議に際して、点数を標準化した数値のほか、当該年俸制教員の業務内容、評価項目数等を勘案するものとする。

(4) 委員会は、審議の結果を学長に報告する。

第5条 この要項に定めるもののほか、年俸制教員の評価に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この要項は、平成28年3月24日から施行する。

業 績 項 目 調 書

年 月 日現在

基本情報

氏名・所属等

氏名	漢字・原語	○○ ○○
	カナ	◇◇◇ ◇◇◇
	ローマ字	XXXXXX, Yyyyyy
性別		■
生年月日	XXXX 年 XX 月 XX 日	
所属	東京藝術大学	●●●●●●
研究分野		
職名		◆◆◆
連絡先	住所（個人）	
	電話番号（個人）	
	FAX番号（個人）	
	メールアドレス	
科学研究費補助金研究者番号		ZZZZZZZZ

学歴

1	XXXX . X	△△大学	▲▲学部		卒業
2	.				
3	.				
4	.				
5	.				
6	.				
1	XXXX . X	△△大学大学院	▲▲研究科		修了
2	.				
3	.				
4	.				
5	.				
6	.				

取得学位

1	学士	△△大学
---	----	------

職歴等

	就任期間	職 歴
1	XXXX . X ~ XXXX . X	■■大学■■学部准教授
2	XXXX . X ~ XXXX . X	■■大学■■学部教授

所属学会等

1	××学会	
2	××学会	

使用する外国語

1	英語	
---	----	--

(1) 教育実績

担当授業科目

	年度	対象学生	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
1	XXXX 年度	学部	●●●●	△△△△			
2	XXXX 年度	学部・大学院	■ ■ ■ ■				

指導学生数

	年度	学部	修士	博士	別科	附属高校	研究生
1	XXXX 年度	○	▲	△	■	□	●

学位授与数

	年度	修士	博士
1	XXXX 年度	▲	△

学位審査会の担当件数

	年度	修士主査	修士副査	博士主査	博士副査
1	XXXX 年度				
	年度	博士作品・第一副査	論文博士主査	論文博士審査委員長	論文博士副査
	XXXX 年度				

教育手法、教材の作成・改善等

	年度	作成・改善内容
1	XXXX 年度	●●●●●●

その他の教育実績

	年度	内容
1	XXXX 年度	□□□□□□

(2) 研究業績

研究課題

	研究期間	課題名	研究態様	共同研究者名及び機関名
1	XXXX . X ~ XXXX . X	□□□□□□	個人研究	
2	XXXX . X ~ XXXX . X	△△△△	共同研究	●● ●●

研究業績 (創作活動等)

	実施期間	種別	業績名及び発表場所等	概要
1	XXXX . X ~ XXXX . X	展覧会	■ ■ 展	◆ ◆ ◆

研究業績 (著書・発表論文等)

	発表年月	種別	著書又は発表論文等の題名	執筆種別	共著者名	著者名	掲載誌名	出版社	巻	号	頁	概要
1	XXXX . X	著書	○○○○○○	単著				▲▲出版				

受賞

	受賞年月	作品名又は業績名	受賞名	国内外別	概要
1	XXXX . X	■ ■	◇◇賞	国内	

学会発表

	発表年月	発表名	学会名	発表場所	国内外別
1	XXXX . X	○○○○○○	××学会		国内

科学研究費補助金

	実施期間	課題名	研究種目	研究態様	実施形態
1	XXXX . X ~ XXXX . X	□□□□□□	基盤研究(B)	個人研究	研究代表者

特許等

	取得年月	種別	特許等の名称
1	.		

その他の研究業績

	年度	内 容
1	年度	

(3) 社会貢献

学外委員会等の委員

	就任期間	委員会等の名称及び職名	種別
1	XXXX . X ~ XXXX . X	××委員会委員	国・地方自治体等の委員

公開講座・学外講師・講演

	実施期間	公開講座等の名称	主催者及び開催場所	概要
1	XXXX . X ~ XXXX . X	○○講座	東京藝術大学	
2	XXXX . X ~ XXXX . X	◆◆講演会	□□市 ◇◇センター	

他大学での非常勤講師等

	実施期間	大学名・職名
1	XXXX . X ~ XXXX . XX	■■大学非常勤講師

その他の社会貢献

	実施期間	内容
1	. ~ .	

(4) 産学連携

受託研究等

	実施期間	受託研究等の名称	種別	実施形態	依頼者
1	XXXX . X ~ XXXX . X	□□に関する研究	受託研究	研究代表者	××市
2	XXXX . X ~ XXXX . X	▲▲事業	受託事業		〇〇市
3	XXXX . X ~ XXXX . X	■ ■に関する研究	共同研究		■ ■ (株)
4	XXXX . X ~ XXXX . X	△△事業	共同事業		●●県

(5) 国際

外国人留学生受入数

年度	
1 XXXX 年度	○

海外渡航（海外研究活動）

渡航期間	渡航先機関	渡航先（国）	渡航目的	経費負担者
1 XXXX . X . X ~ XXXX . X . X	●●大学	○○	資料収集	自費

学会発表

発表年月	発表名	学会名	発表場所	国内外別
1 XXXX . X	○○○○○○	××学会		国外

その他の国際活動

実施期間	内容
1 . ~ .	

(6) 大学運営上の貢献

学内委員会等の委員

	就任期間	委員会等の名称	種別
1	XXXX . X ~ XXXX . X	〇〇室	理事室
2	XXXX . X ~ XXXX . X	■■運営委員会	全学委員会
3	XXXX . X ~ XXXX . X	△△学部◆◆委員会	部局内委員会

全学プロジェクト等

	期間	内容
1	XXXX . X ~ XXXX . X	××プロジェクト

部局マネジメント等

	期間	内容
1	XXXX . X ~ XXXX . X	●●●●●●

項目評価調書

所属:

氏名:

1. 評価項目

項目	評価対象	細目等	実績数等	1次評価 評定	2次評価 評点
教育		担当授業科目			
		学部			
		大学院			
		附属高校			
		指導学生数			
		学部			
		修士			
		博士			
		別科			
		附属高校			
		研究生			
		学位授与数			
		修士			
		博士			
		学位審査			
		修士			
		主査			
		副査			
		課程博士			
		主査			
副査					
作品・論文第一副査					
論文博士					
主査					
審査委員長					
副査					
教育手法、教材の作成・改善等					
その他の教育実績					
研究		研究課題			
		研究業績(創作活動等)			
		研究業績(著書・発表論文等)			
		受賞			
		学会発表(国内)			
		科学研究費補助金			
		特許等			
その他の研究業績					
社会貢献		学外委員会等の委員			
		公開講座・学外講師・講演			
		他大学での非常勤講師等			
		その他の社会貢献			
産学連携		受託研究			
		受託事業			
		共同研究			
		共同事業			
国際		外国人留学生受入数			
		海外渡航(海外研究活動)			
		学会発表(国外)			
		その他の国際活動			
大学運営		学内委員会等の委員			
		学内プロジェクト等			
		部局マネジメント等			

2. 項目評価基準(1次評価)

評定	評価基準	貢献度に関する調書
◎	被評価者の専門的分野及び全学的な見地からも極めて顕著な業績があると客観的に認められる場合 特に顕著な業績と客観的に認められる場合	要
○ ⁺	標準を上回る業績であると認められる場合	
○	通常の職に期待できる業績であると認められる場合【標準】	不要
△	勤務成績が不良な場合	要

※○以外の評定を付した項目がある場合は、その項目ごとに別紙様式3「貢献度に関する調書」を提出すること

目標管理調書

被評価者	所属:	職名:	氏名:
------	-----	-----	-----

	被 評 価 者 記 載 欄	1次 評価	2次 評価
	目 標	取 組	実 績
業 績 目 標			

2. 評価基準（1次評価）

評価	評価基準	エビデンス
◎	被評価者の専門的分野及び全学的な見地からも極めて顕著な業績があると客観的に認められる場合 特に顕著な業績と客観的に認められる場合	要
○+	標準を上回る業績であると認められる場合	
○	通常の職に期待できる業績であると認められる場合【標準】	不要
△	取組状況が不十分な場合	要

貢献度に関する調書

学 長 殿

職名： _____

氏名： _____

このことについて、下記のとおり報告します。

対象者	職名：	氏名：
対象期間	(元号) 年 月 日 ~ (元号) 年 月 日	
<input type="checkbox"/> 評価方法		
<input type="checkbox"/> 評価項目		
<input type="checkbox"/> 評価した理由（エビデンスを含む：別途参考資料があれば添付）		